

高知地学研究会会報

平成8年12月20日発行

第6号

●野外見学採集会●

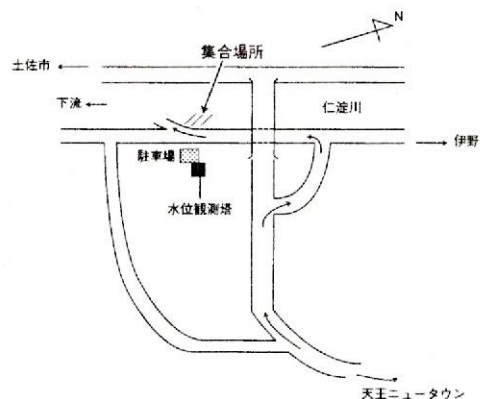
川原の小石から上流の地質をさぐるシリーズ＜その1＞ 八田付近の仁淀川原

◎日 時： 平成9年2月2日（日）午前10時

◎集合場所： 伊野町八田 八天大橋（はってんおおはし）東詰めの下
（右の図を参考にして下さい。）

◎解散時刻： 12時

★小雨くらいなら実施の予定ですが、判らない時には
その日の7時から8時の間に電話で問い合わせして下さい。



●第4回野外見学採集会報告●

西村 真也

会報第5号でお知らせした第4回野外見学採集会が、平成8年11月3日（日）に会員他28名の参加のもと開催されました。今回は室戸市羽根町登の登層模式地において、新第三紀鮮新世の化石採集が中心となりました。

秋晴れの好天に恵まれ、参加者一同汗をかきながら集合場所である羽根産業の駐車場より採集地点の露頭までの坂道を登りました。そこで会報第4号に本地点を紹介していただいた三浦佐恵子（安芸高教諭）・仁尾晴美（中芸高教諭）両氏に付近の地質や化石のお話をうかがった後、さっそく各自化石の採集にとりかかりました。

ここには灰白色のやわらかい泥質岩中に多くの二枚貝や巻貝、魚の耳石、有孔虫などの化石が含ま



化石採集風景

れており、全員が保存のよい化石を採集しようと熱心にハンマーをふるいました。中でも皆の採集の目的となったのがサメの歯の化石。めったに産出しないものながら、先に同地点で行なわれた高知化石研究会の採集会で5個産出していたということで、それぞれが懸命に探しましたが、残念ながら採集することはできませんでした。

また登層は大陸棚に堆積した地層と考えられており、比較的浅い海に生息する貝類と深海に生息する貝類の化石とが同時に産出し、「これは何という貝」「どこに住んでいたものか」など、化石の鑑定にあたった川沢会長、川添副会長、三本健二氏の元には多くの化石が寄せられました。一方これらの化石類に混じって、きれいに円磨された直径5mm程度のチャート礫が見つかり、その供給地についての議論がなされたりもしました。全体は昼食時にいったん解散となりなりましたが、暖かな日ざしの中で各々がお弁当を広げ、昼食後もさらにハンマーを握る姿がみられました。

次に参加者の皆さんに書いていただいた感想を紹介いたします。

- 新聞の伝言板で知り初めて参加しましたが、意外に多くの人が集まっていて驚きました。これを機会に化石といわず、色々な事にも興味をもっていきたいと思います。成果を皆が持ち寄って、先生方の説明がなかなか良かったと思います。(福原公二さん)
- 化石採集をしたのは小学校以来23年ぶりのことです。私の家は高知市の福井町にあり、よく化石採集の好きな兄と一緒に、鴻ノ森のガケに貝やアンモナイトなどをたびたび採りにいきました。兄は現在もモロッコまで化石採集にいくほどのマニアです。偶然のことですが私の妻の父が、化石の研究者であったのも不思議な縁と思っています。(片木圭さん)
- 思ったよりいっぱいとれたので、もう一度したいと思います。(五宝健人くん)
- さめのはがもくてきできました。なかなかとれませんでした。(五宝翔平くん)

- 初めての体験でした。耳石の形にも色々あり、アッ、これは何だろう……と、楽しい半日でした。(三浦昭子さん)
- 初めて化石を意識しました。色々な楽しみ方と、色々な思い出、色々な人達を感じることができて、とても楽しい日になりました。また参加させていただきたいと思います。(間仁子さん)
- なかなかお目当てのものがみつからず、よく分からないものが多く見つかりました。(宝巻孝朗さん)
- 本で読んで一度は来てみたいと思っておりました。実際に自分の手で確認できたのはとてもうれしく思います。これからも参加できるような会をお願い致します。(嶋田須賀さん)
- 生まれて初めての体験、化石を探す会へ参加し、そして小さな小さな石つぶを岩石の中から見つけた。その小さな石は雲のような模様が描かれている。遠い遠い道のりを経て、今、私の手のひらの上にある。(坪屋幸子さん)

日本地質学会西日本・関西支部合同四国例会

川澤 啓三

上記の学会が、去る10月18日(金)より3日間、高知大学で開催された。いろいろな事情で、参加できなかった会員もあったと思うので、以下にその報告を記しておきます。

第1日 10月18日(金)

野外地質見学(応用地質関係)：高岡郡仁淀村長者および高岡郡越知町谷ノ内

案内は、岡村 眞先生(高知大学)と夕部雅丈さん(高知県港湾局港湾課)。参加者：遠藤 尚(宮崎大学)・池田和久(キンキ地質)・堀川滋雄(サンコーコンサルタント)・増田 信(キンキ地質)・川添 晃(高知地学研)・川澤啓三(同)の合わせて8名。

高知大学に8：30集合して、ワンボックスカー2台に分乗して現地へ向かう。まず、古くから「匍行性長者地すべり」として知られる越知町長者の対岸の宮ガ坪(なろ)から全景を遠望して、現在地すべりが進行中の寺野(長者部落の中心地)の西方400mの北斜面の地すべり地形を観察する。この付近の地質は、秩父累帯の黒瀬川亜帯伊野層に属し、準片岩化している。地すべり地域の頭部と、西側には断層破碎帯があつて、そこには蛇紋岩が貫入している。これらが地すべりの要因となっているとのことである。この後、地すべり地域の最南端の頭部まで登り(標高535m)、ここで運良く破碎帯の中の粘土上にすべり方向を示すリニエーション(線構造)を見つけることができた。また、現地表面も地すべり面に対応して、4～5段の緩斜面がみられた。さらに、この地域では、昭和52年度(1977年)より排水トンネル工(幅2m×高さ2m)が施行され、最大排水量5トン/分が観測され、移動防止に

一定の効果を果たしている。このトンネルの北西側入り口より182.5m地点で、見事な左横ずれの変位（昭和52年より10年間で1.8mに達する）を観察できた。

午後は、越知町小浜・横畠本村より、新しく出来た浅尾トンネルを経て、片岡で県道から分かれて谷ノ内の部落に入り、地すべり末端部での変位を観察する。（林道沿い標高270mの地点）ここで谷ノ内地すべり地域の地質概要について説明をうける。それによれば、ここは秩父累帯の秩父亜帯（従来の北帯に相当）の砂岩・泥岩互層を主とし、チャート・緑色岩等を挟み一般走向はおおよそE-W、低角度で南斜し地すべり地に対して流れ盤構造で、孔内傾斜計のデータによれば、現在滑動中の滑り面は緑色岩層中またはその下面付近にあるとのこと。緑色岩は海洋性玄武岩起源のハイアロクラスタイトで、これの風化により生じた粘土鉱物（クロライト）に起因するということである。この後、谷ノ内の集落の北側の尾根に登り、地すべり地の頭部の650mの等高線に明瞭に示されているような、二重山稜を観察した。この凹地のリニアメントは南西―北東方向に800mくらい追跡できる。この二重山稜は、過去（更新世）の大規模な古期崩壊の結果形成されたもので、現在は比較的安定しているが、山脚側の侵食が進めば再活動も考えられるので、防災上重要といえる。

以上県内2地域を短時間内に有効に見学できたのは、案内者の綿密な準備と、丁寧な印刷物が、理解を助けるのに大変に有効であったことを記して、感謝の言葉としたい。学校教育の場にも、このような大地に根ざした防災教育も、今後とりいれていったらどうだろう。

第2日 10月19日（土）

講演要旨については、後日支部報に掲載されるので、それを参照していただきたい。ここには、講演題名と演者名だけを掲載しておく。

9：00～12：15 個人講演

1. 四万十帯・津呂層中のキンクバンドの形成過程
・・・梅村隼夫（高知大・理）・刈谷絹枝（中村西中）
2. 九州・四国の白亜紀～古第三紀赤色層 一層序と構成鉱物－
・・・田代正之・中川昌治（高知大・理）
3. 広島県世羅台地から見いだされた新生代玄武岩の火道について
・・・鈴木盛久（広島大・学教）ほか
4. 舞鶴花こう岩のRb-Sr年代とその意味
・・・早坂康隆（広島大・理）ほか
5. 四万十帯大山岬産珪長質火成岩礫のジルコン U-Pb年代
・・・吉倉紳一・鈴木堯士（高知大・理）ほか
6. 四国中央部三波川帯ザクロ石帯の再検討
・・・原 郁夫（広島大・理）ほか
7. 山口県藤ヶ谷鉱山の帯状スカルン鉱脈の生成機構と地球化学的マスバランス
・・・東元定雄（広島工大）

8. 広島県庄原地域の蠟石鉱床の生成時期と生成機構
 ・ ・ ・ 東元定雄 (広島工大)
9. 阿讃山地の隆起過程：鮮新～更新統三豊層群を指標にして
 ・ ・ ・ 植木岳雪・満塩大洗 (高知大・理)
10. 愛媛県南部城辺町での0.82Ma テフラの発見とその意義
 ・ ・ ・ 鹿島愛彦 (愛媛大・農) ・ 満塩大洗 (高知大・理)
11. 愛媛県高縄半島北西部の第四紀の環境変遷
 ・ ・ ・ 五十嵐高雲・満塩大洗 (高知大・理) ・ 鹿島愛彦 (愛媛大・農)
- 14:30～17:00 シンポジウム「西南日本外帯の最近の研究動向」
- 「三波川帯」 ・ ・ ・ ・ ・ 榎並正樹 (名古屋大・理)
- 「御荷鉾帯」 ・ ・ ・ ・ ・ 石塚英男 (高知大・理)
- 「秩父帯」 ・ ・ ・ ・ ・ 波田重熙 (神戸大・大教研セ)
- 「四万十帯」 ・ ・ ・ ・ ・ 岡村 真 (高知大・理)
- 総合討論 ・ ・ ・ ・ ・ 座長・石塚英男
- 18:00 ～ オリентホテルにて
- 梅村隼夫先生 (高知大) の軽妙な司会で懇親会が進められ、楽しい一夕であった。なおこの席で、地学研究会発行の「絵はがき」の宣伝?の場が与えられたことをつけくわえておきます。

第3日 10月20日 (日)

9:00 ～ 12:35 個人講演

12. 創造性を育てる教育について
 ・ ・ ・ 今村忠彦
13. 土佐の秋ーナウマンの見たもの
 ・ ・ ・ 清水大吉郎
14. 九州秩父帯の砂岩組成
 ・ ・ ・ 酒井 彰 (地調)
15. 山口県西部地域の古第三系中のオーソコートライトクラスト及び韓国嶺南系・朝鮮系コートライト
 ・ ・ ・ 東元定雄 (広島工大) ・ 岡本和夫
16. 碎屑性ザクロ石の起源——九州大野川地域の中・古生界を例として
 ・ ・ ・ 寺岡易司 (広島大・学教)
17. 九州における白亜紀イノセラムスの層序的産出範囲
 ・ ・ ・ 野田雅之 (大分地質学会) ・ 田代正之 (高知大・理)
18. *Unuma echinatus* 群集 (ジュラ紀中世放散虫) の群集組成 [その10]
 ・ ・ ・ 八尾 昭 (大阪市大・理)

19. 紀伊半島東部に分布する四万十帯から産する生痕化石について（予報）
 ・ ・ ・ 津村善博（三重県教委）
20. 鮮新世後期の陸棚成堆積サイクルと底生動物化石群の組成と産状：高知県安田町の唐の浜層群
 穴内層
 ・ ・ ・ 近藤康生・菊池直樹・広瀬浩司（高知大・理）
21. 高知県領石地域の物部川層群と底生動物化石群
 ・ ・ ・ 菊池直樹・近藤康生・田代正之（高知大・理）
22. 西赤道太平洋域における過去100万年間の海洋環境変動
 ・ ・ ・ 国澤輝仁・安田尚登（高知大・理）

●地学教育実践●

中学校理科の第2分野地学的領域において、地質に関する内容は「大地の変化と地球」という項目によって第3学年で学習されます。この領域においては「大地の活動の様子や身近な地形、地層、岩石などの観察を通して地表に見られる様々な事物・現象を大地の変動と関連づけてみる見方や考え方を養うとともに、人間の生存の場としての地球について総合的に考察させる」（学習指導要領）ことが目的となっています。実際、生徒の“理科嫌い”がいわれる中、教科の仮説に基づき、思考や理解を助ける実験、観察において、その最適化を十分検討し実行することが、生徒の課題意識を高め、生徒を意欲的に課題解決に取り組ませると考えられます。これに向けて、時間・空間共にスケールの大きい地学領域において、次のような実践が行なわれていますのでご紹介します。

実践 「高知県の地質とプレートテクトニクス」

（高知大学教育学部附属中学校）今 城 雅 彦

1. 題材 地殻変動

中心課題「高知県の地質の成り立ちを考えてみよう」

2. 題材について

本題材は、既習事項（火山と火成岩・地震・地表の変化・地層）を利用し、いくつかの基本的な地質構造から、その地質が受けた過去の地殻変動をひもとこうとするものである。

世界の屋根とよばれるヒマラヤ山脈を形成する地層には、それがかつて海底で形成されたという多

くの証拠が残されている。この事実から、地殻に何らかの大きな力が加わっているということは推測できる。このような地殻の変動を示す例は地球全体に無数に存在する。われわれの住む高知県とて例外ではない。その高知県が、すでに定説化したプレートテクトニクス理論を世界で初めて地上で検証した場所であることは、以外に知られてない。本題材では、この地の利を生かして、応用・総合編として「高知県の地層とプレートテクトニクス」と題して教材化し、その中でいくつかの事実を上げ、今われわれが立っている大地の成立のシナリオを、自分なりに考えるという課題を設定した。身近な地域を地球規模の変動と結びつけつことにより、学習意欲を高め、日頃、気にもとめられない身近な地層が、過去の地球の壮大なドラマを物語るタイムカプセルであることに気づかせたい。

3. 指導目標

- ①基本的地質構造（褶曲・断層・不整合）から、その地層が受けた地殻変動を推測できることを理解させる。
- ②山脈や海溝という地形の分布と、火山帯・地震帯が一致する。このことから、この地域が現在も地殻変動を受け続けていることを理解させる。
- ③多くの地殻変動がプレートテクトニクス理論によって説明できることを理解させる。

4. 指導計画（全5時間配当）

- ①地層の変形からわかる過去の地殻変動・・・・・・・・・・1時間
- ②不整合からわかる過去の地殻変動・・・・・・・・・・1時間
- ③過去の地殻変動と山脈・・・・・・・・・・1時間
- ④応用・総合編
高知県の地質の成り立ちを考える・・・・・・・・・・2時間（本時 2/2）

5. 本時の学習

- ①主題：高知県の地質の成り立ち
- ②本時の目標
・高知県の地層の成り立ちについて、自分なりの考えを持ちまとめることができる。
- ③本時の視点
・本題材が生徒の課題意識を高めるのに効果があったか。
- ④展開
(次ページ)

学 習 過 程	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1. 課題の確認	・高知県の地質の特徴の再確認をする。 ① 8000万年前には今の場所で形成された砂岩・泥岩と、1億3000万年前に赤道付近で形成された溶岩とチャートが同一の地層の中に混在するという事実を君はどう説明する。	・スライドを使い素早く説明する。 (手結住吉海岸のメランジェ)
2. 課題解決開始	・プリントに自分の考えをまとめる。	・プリントの配布 ・机間巡視
3. 討 議 (課題解決)	・自分の意見の発表をする。 ・他の意見に質問する。 ① プレート理論による説明。 ② 赤道の移動、地軸のずれなどの説による説明。 ③ その他	・与えた資料に対して矛盾がなければ、どんな説でもよい。
4. 考えの1つを説明 (現在の定説)	・世界で初めて地上でプレートテクトニクス理論を裏付けた場所としての高知を知る。	・あくまで正解ではなく1つの考えであることを強調する。 ・スライド、ビデオによる説明。
5. ま と め	・現在も変動が続いていることを知る。 ・過去を知り現在を知る。現在を知り過去を知る。	・過去の地質現象は、現在の自然現象と同じ作用で起こった。 (斉一観)

目標分析表

項目	知 識 ・ 理 解	観 察 ・ 実 験 の 技 能	科 学 的 な 思 考	自 然 対 す る 関 心 ・ 態 度
のら地 地わ質 質か 変る変 動過形 去か	・褶曲と断層の地質造が説明できる。 ・正断層と逆断層の違いが説明できる。		・正断層、逆断層の成因を説明できる。	
のわ不 地か整 殻る合 変過か 動去ら	・地層の不整合・整合の関係からその地層が受けた過去の変動が説明できる。 - 不整合は地層が陸化した証拠である。		・褶曲、断層、不整合などの多くの地質構造を持つ地層の例からその地層成立のプロセスを考えることができる。	・身のまわりの地層から、その成り立ちを考えようとする。
過と去 ブの地 レ地 ！殻 ト変 論動	・山脈や海溝は大きな地殻変動を受けていることを説明できる ・地球規模の地殻変動を説明するものとして、プレート論の概略を知る。		・高知県の具体的な地質データから、高知の地層の成立を推論できる。 ・プレート論を用いて高知の地層の成り立ちを説明できる。	・郷土の地層とプレート論の関係について関心を持つ。

今城雅彦（1992）：意欲的に課題解決学習に向かわせるための実験や観察の最適化、高知大学教育学部附属中学校研究紀要第26集より抜粋

竜巻ができた

竹島 洋文



授業風景 「できた!とるね〜ど」

上の写真は、高等学校「地学Ⅱ」の授業の様子です。課題研究といって、個人やグループで実験・観察や調査を行い研究するという項目があります。竜巻を調べ、そして実際に竜巻モデルを作るというグループがありました。ドライアイスで二酸化炭素を発生させ、これをヘアドライヤーで吸い上げて50cmほどの渦巻ができています。ここに至るまでに、扇風機や掃除機などを持ち出したりして、いろいろと試行錯誤を繰り返し成功させました。ターンテーブルの上で行うと転向力の学習ができたり、写真はターンテーブルを止めた状態ですが、ヘアドライヤーのファンの回転の影響で微妙にねじれている様子が見られたりと、面白い実験です。

※このコーナーでは、写真・スケッチをもとにした小さな記事を募集しています。

絵はがきのこと

川添 晃

『四国地質ガイド第1集』がやっとできました。絵はがきの作製が話題になったのは1年ほど前のことでした。“地質ガイドブック”を成功させるにはそれなりの準備が必要であり、まずはその資料としての絵はがきが登場したのです。このセットを順序よく何組かまとめて編集すれば、それがガイドブックにつながるというねらいがあったのです。

このことについて本格的な取り組みがスタートしたのは7月5日の夜、高知大学地学教室でした。役員数名が手持ちのスライドを持ち寄って、これを参考にしながらまずは場所を選ぶことになりました。この日はとりあえず十数ヶ所が候補地としてとりあげられました。“できるだけ多くの会員がとっておきのスライドを提供する”“10月18日からの四国地質学会までに完成させる”——これがこの日の役員たちの強い思いでありました。

8月27日、2回日の検討会が西高校視聴覚室で行われました。写真の方はそこそこ目処がついたものの解説が大変。現役の先生は忙しいからと、退職組の川沢・川添が担当することになってしまいました。この文章、後でこっぴどく叩かれることは十分承知のうえでした。

9月になり3回目の検討会がありました。この検討会にはスタートから細迫さんというたのもしの方が参加してくれていました。印刷は吉倉先生の紹介で南の風社と決まっていて、彼はその代表者だったのです。

これまで地質とはほとんど縁はなかったようですが、第三者（一般の購入者）的立場からするどい指摘を何度もいただきました。またレイアウトや安く仕上げる工夫などのアドバイスがとてもありがたく思われたことでした。彼が地域の文化に根ざし、ユニークな作品を創ろうとする並々ならぬ意欲の持ち主であることも知りました。

あれやこれやで、いくつかの候補地が消えたり浮かんたりしながら、何とか12ヶ所ほどが決まりました。最後まで生き残っていて土壇場で没になったのは意外にも竜串でした。しかしこれは次回に温存されることになります。撮影のポジションが最も難しかったのは横波のチャート、年配組が漁船を借りようかと話していた矢先、若い先生がなんと水中バイクで撮影したのです。これにはしみじみと年の差を思い知らされたことでした。最終的に絵はがきの枚数が8枚と決まったのも、この若い先生の鶴の一声であったように記憶しています。

最後のつめが行われたのは10月5日のこと、これですべての原稿が南の風社に送られました。吉倉先生がインド出張から帰られた直後のことです。このようにして第1集が誕生いたしました。今後はこの販売と第2集への準備が始まります。すばらしい地学的自然がいっぱいの高知のこと、会員の皆様からよいアイデアが届くのを待っています。

四国の地層絵はがきに

高知地学研 第一弾で県内版発行

県内の大学教授や小中高の教諭、社会人らでつく

る「高知地学研究会」(川

沢啓三会長)はこのほど、

絵はがきセット「現地に見

る地球の生い立ち―四国地

質ガイド第一集―」を発行

した。地質学上重要な資料

である県内の地層や岩石を

八枚組でまとめている。

一昨年春に発足した同研

究会は、四国全体の地質を

網羅したガイドブック製作

を主要事業に位置付けてい

る。製作の前段階として絵

はがきセットをシリーズ化

して発行。四国全体の地層

などが出そろった後ガイド

ブックにまとめるという。

今回はシリーズ化の第一

弾で、土佐清水市の千尋岬

の砂岩泥岩互層や、高岡郡

越知町の横倉山のサンゴ化

石、高知市鴻ノ森の酸性凝

灰岩など県内の代表的な地

層や岩石をモチーフにして

いる。

同研究会メンバーの吉倉

紳一・高知大理学部教授

(地質学)は「第一弾なの

で、県内でも特に見ごたえ

のある八カ所を選んだ。絵

まで。

はがきを使ってもらうこと

で、四国の自然の素晴らし

さを感じてほしい」と話し

ている。

二千組を発行し、高知大

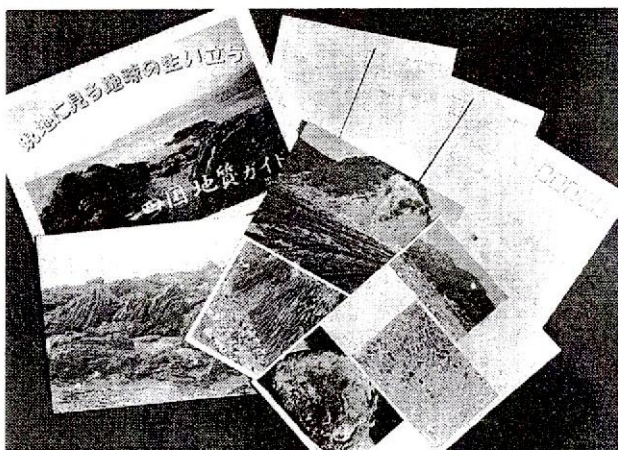
や高岡郡佐川町の町立佐川

地質館、県内書店などで販

売。問い合わせなどは同研

究会事務局(0888・4

4・8323 吉倉教授)



高知地学研究会が発行した絵はがきセット
「現地に見る地球の生い立ち」

高知新聞

お知らせ

会の発足からまもなく二年になりますが、事務局の不手際、連絡ミスなどあり申し訳ございませんでした。運営上の問題点もいろいろと分かり、改善を重ねているところです。これからも会員の方々のご意見をお聞かせ下さい。

来年のこととなりますが、平成9年度の会費を平成9年1月以降3月までの間に納入して下さい。会計の都合上必ず郵便振替口座(記号:16440、番号:6235711、名前:高知地学研究会 吉倉紳一)をご利用願います。現在会計上、運営が苦しい状態です。当初会報を年4回発行の予定でしたが、会費の未納や会の発足のための運営経費のため、平成8年度の会報は会報7号(平成9年2月中旬発行予定)をもって勝手ながら終わりたいと思います。今後、会報のやりくりや会費のことを考えながら発行します。なお平成9年度総会(平成9年3月20日予定)の時に、平成10年度の会費や会報の発行回数について話し合いたいと思います。現在会員数は60名ほどです。入退会や住所変更などありましたら、事務局まで連絡をお願いします。

会報「絵はがきのこと」にありましたように、今回絵はがきを販売することとなりました。そこで会員の皆さんにお願いなのですが、ぜひとも買っていただきたく、そしてこの絵はがきの宣伝をお願いします。すこしでも多く販売し、研究会の赤字減らしにあてたいと思っています。販売所および会

員による販売ネットワークは下記のとおりに決まりましたのでよろしくお願いします。

ホテル：サンライズホテル、三翠園、新阪急ホテル、城西館

書店：[高知市] 富士書房、金高堂書店、明文堂、片桐書店、島内書店、日新館、いそっぷ館、ブックスヒサオ、ルマ書店、高知大生協、宮脇書店高須店、金高堂朝倉店、百石書店、平松書店

[東部] 鍋島書店（室戸）、鍋島書店サンシャイン店（同）、ブックス中芸（奈半利）、横山書店（安芸）、ブックスフロンティア（同）、依光書店（山田）、興文堂南国店（南国）、小川書店（同）

[西部] ブックセンター土佐（土佐市）、ブックス56（窪川）、カサギ駅前店（中村）、楓書店（同）、明屋書店（同）、笠木書店（宿毛）、つたや書店（土佐清水）

施設：キラメッセ室戸、室戸少年自然の家、佐川地質館、横倉山自然交流センター（越知町役場）

会員：[東部] 仁尾晴美（中芸高校）、三浦佐恵子（安芸高校）

[中部] 森岡美和（西高校）、竹島洋文（追手前高校）、西村真也（朝倉中学校）

[西部] 岡村洋一郎（蔵岡中学校）

最後になりましたが、広く会報への投稿を募集しています。この会をみんなで充実・発展させましょう。

インターネットで高知地学研究会の情報が公開されています

本研究会のインターネットのホームページができました。本HPはすでに終了しています。

URL（アドレス）は~~http://cc1.kochi-u.ac.jp/KCK/~~です。“お知らせ”，“設立趣意書”，“会則”，平成8年度総会プログラム，“Photo Gallerly”，“会報”，“御意見・ご感想をお願いします”などの項目があります。Photo Gallerlyには第1回鳥巣巡検，第2回横倉山巡検，絵葉書第1集の写真が掲載されています。コンピューターをお持ちで、インターネットに接続されている方は、ぜひご覧ください。

ちなみに、12月18日までに173名が閲覧しています。なお、このホームページの開設と運営については、高知大学理学部地学教室の村上 英記先生のご援助に負うところが多いことを明記して感謝します。

訂正とお詫び

会報第5号p.11でお知らせしました会費納入の郵便振替口座番号に誤りがありましたので、以下のように訂正してお詫び申し上げます。

~~誤：番号6235771~~ 正：番号6235711 本口座はすでに終了しています。

発行：高知地学研究会
(吉倉紳一・竹島洋文)